

# 地震 水 火 風

牧野 恒一

生きていた間に遭いたくなかった大変な災害が発生してしまった。巨大地震に伴う大津波で東日本

の太平洋側沿岸部は文字通り壊滅状態になり、福島原発も判断を許さない状況に追い込まれている。

亡くなられた方々の冥福をお祈りするとともに、被災して今なお苦難の中にさらされる方々が早く平安な生活を送れるよう、出来る限りのことをしたいと思う。

これから日本はいったいどうなるのか。どう対応していくべきなのか。敗戦以来の国難に、国民一人ひとりの行動が問われている。

考えなければならぬことが多過ぎて、とても一回や二回ではまとめきれないが、本欄を借り、

今回の大震災に関して重要と思われることを、逐次まとめていくこととしたい。

## 「東日本大震災」

地震は、平成23年3月11日午後2時46分頃に発生した。地震の規模はモーメントマグニチュードでなんと9.0。震源の深さは24km。震央は三陸沖とされているが、震源域は広大で、三陸沖から茨城県沖まで、幅80km以上、長さ200km前後の二つの断層が6m〜28mもずれ動いた。最大震度7を観測したのは宮城県栗原市1市だが、震度6強は宮城、福島、茨城、栃木の4県で34市町村、震度6弱は岩手、群馬、埼玉、千葉を加えた8県、69市町村にのぼっている。

4月1日現在で、死者は1万1千人余、行方不明者は1万3千人余とされているが、役場ごと流された町や全員流された家族なども多いため未だに全貌が掴めず、死者と行方不明者の合計は最終的には数万人にのぼると見られている。

気象庁はこの日本の観測史上最大の地震を「東北方太平洋沖地震」と名付け、政府はこの地震による地震・津波災害を「東日本大震災」と呼ぶことにしている。

「津波被災地」 仙台市の津波被災地を見る機会を得たが、建物

と車の残骸が見渡す限りある。

車の堆積の一つでは火災が発生し、全車両黒こげになっている。車からガソリンが漏れて引火し、他の車に延焼したのだらう。

海に近いところにあった住宅は、津波ですべて根こそぎ奥に流されていく。少し高いところでは流れが弱まるため建物が持ちこたえ、流されて来た

建物や車の残骸がその間に違くない。津波発生直後は建物や車の残骸が折り重なって消防車が入り込めない状態であった。風の向きや強さなどの条件次第では、大規模な市街地火災に発展した可能性もある。この地域でそうならなかったのは、不幸中の幸いというべきかも知れない

「東日本大震災」と呼ぶことにしている。

## 「津波火災」

今回の津波では「津波火災」ともいうべき現象が多発した。気仙沼市などが典型だが、津波に襲われた地域で同時多発火災が発生し、何十ヘクタールという規模で大規模な市街地火災や山火事が起こっている。

津波で何故こんなに火災が?と思っていたのだが、この地域を見て理由がわかった。流れて来た可燃物が建物と建物の間に大量に堆積し、そこに貯油タンクから流れ出した油、ガソリン、プロパンガスのボンベなどが流れ着いて何らかの原因で着火すると、津波の衝撃で火災になった住宅がそのまま流れて来て燃え移る、などということが起きれば、確かに容易に大きな火災になってしまう。

津波で発生した火災が、この地域を見て理由がわかった。流れて来た可燃物が建物と建物の間に大量に堆積し、そこに貯油タンクから流れ出した油、ガソリン、プロパンガスのボンベなどが流れ着いて何らかの原因で着火すると、津波の衝撃で火災になった住宅がそのまま流れて来て燃え移る、などということが起きれば、確かに容易に大きな火災になってしまう。

「超広域・巨大災害」 今回の地震・津波災害で大変なのは、私が見た津波被災地は全被災地のごく一部に過ぎない、と

「超広域・巨大災害」 今回の地震・津波災害で大変なのは、私が見た津波被災地は全被災地のごく一部に過ぎない、と

「超広域・巨大災害」 今回の地震・津波災害で大変なのは、私が見た津波被災地は全被災地のごく一部に過ぎない、と

あちこちで起こり、消防活動ができる状況でもないため、大規模な市街地火災や山火事になってしまったのだらう。

せっかく大地震に持ちこたえ、津波も届かなかったのに、津波火災で焼失してしまった、という住宅も多数あるという。お気の毒に、としか言いようがない。

「超広域・巨大災害」 今回の地震・津波災害で大変なのは、私が見た津波被災地は全被災地のごく一部に過ぎない、と

「超広域・巨大災害」 今回の地震・津波災害で大変なのは、私が見た津波被災地は全被災地のごく一部に過ぎない、と

「超広域・巨大災害」 今回の地震・津波災害で大変なのは、私が見た津波被災地は全被災地のごく一部に過ぎない、と

「超広域・巨大災害」 今回の地震・津波災害で大変なのは、私が見た津波被災地は全被災地のごく一部に過ぎない、と

同じような超広域巨大災害となった中国の四川大地震の際には、「対口支援」という支援が行われた。被災市に特定の応援市(又はいくつかの応援市のグループ)を割り当て、職員の応援派遣から学術会議ではこの「ペアリング支援」方式を積極的に採用するよう、政府に求めている。

知事会、市長会、町村会など自治体の全国団体も、この方式と似たような考えを持って支援を始めているようだ。自治体どうしの過去の協力の実績などがあつて機械的にペアリングができるわけではなく、なかなか理想どおりにはいかないようだ。だが、前例のない規模の支援が始まっている。

未曽有の大災害に、被災地も応援側も手探りのところがあるが、一刻も早い復旧と復興のため、過去にとらわれず、思い切った支援体制を構築してほしいと思う。

未曽有の大災害に、被災地も応援側も手探りのところがあるが、一刻も早い復旧と復興のため、過去にとらわれず、思い切った支援体制を構築してほしいと思う。

未曽有の大災害に、被災地も応援側も手探りのところがあるが、一刻も早い復旧と復興のため、過去にとらわれず、思い切った支援体制を構築してほしいと思う。

未曽有の大災害に、被災地も応援側も手探りのところがあるが、一刻も早い復旧と復興のため、過去にとらわれず、思い切った支援体制を構築してほしいと思う。

## 東日本大震災とペアリング支援

「津波被災地」 仙台市の津波被災地を見る機会を得たが、建物と車の残骸が見渡す限りある。車の堆積の一つでは火災が発生し、全車両黒こげになっている。車からガソリンが漏れて引火し、他の車に延焼したのだらう。海に近いところにあった住宅は、津波ですべて根こそぎ奥に流されていく。少し高いところでは流れが弱まるため建物が持ちこたえ、流されて来た建物や車の残骸がその間に違くない。津波発生直後は建物や車の残骸が折り重なって消防車が入り込めない状態であった。風の向きや強さなどの条件次第では、大規模な市街地火災に発展した可能性もある。この地域でそうならなかったのは、不幸中の幸いというべきかも知れない

「ペアリング支援」